

はじめに

年を取ってくると、老化が起こってきます。髪が白くなったり、耳が遠くなったり、目がかすんできたりします。腰が痛い、疲れやすいなど、体力も若い時に比べれば落ちてくるでしょう。そして忘れっぽくなって、人の名前がふと思い出せなくなることもあります。さてはボケかな、アルツハイマー病が始まったかなと心配になります。しかし、通常の私たちが経験する忘れっぽさは、年のせいでは起こっていることで、認知症ではありません。認知症は疾病によって起こるもので、年のせいだけでは起こりません。

私は、精神科医として多くのお年寄りを診察させていただきました。また、介護をする家族の方々への援助にもたずさわってまいりました。最近では、認知症の介護専門職を育成する仕事にも力を尽くしています。そして、呆け老人をかかえる家族の会の顧問をつとめている関係もあり、一般の方々を対象にして、認知症のお話をさせていただく機会が増えてきました。

そのような折、マイライフ社のすすめもあって、『認知症とは何か』、『家族に認知症が起こった時にどうすべきか』、『認知症のケアはどうすれば良いか』、さらには『自分自身が認知症にならないようするにはどんな方法があるのか』など、今までの講演でお話した内容を、家族の会機関誌“ぼーればーれ”からの一部転載も含めて、1冊にまとめてみました。

また2004年12月に痴呆という呼称が認知症に変わりました。この改称により認知症の方の尊厳を支えることがより積極的にとらえられて、理解が正しく深められることが期待されます。本書も改称にあわせて一部を改めて出版することになりました。

自分自身、または家族が老いを迎えた時、認知症についての正しい知識を持っていることは、質の良い暮らしを維持するためにとっても大切なことです。本書を是非役立てていただければ幸いです。

著者